

平成30年度 会派調査研究報告書

(視察先1箇所につき1枚)

会 派 名	上志の風
事 業 名	第151回日本PFI・PPP協会セミナー
事 業 区 分	①研究研修 ②調 査

1 上田市での課題と研修・調査の目的

上田市も会員となっているPFI・PPP協会が主催のセミナーに参加。公共サービスや公共市場という分野は膨大であり、市場の規模を考えた時に今後大きく注力されていく分野である。また、民間企業が公共施設のPFIを提案する中で、AI技術の活用が必須になる一方で、地方自治体においても、人が様々な状況で業務を行う中、いかにAIを活用していけるかが重要であり、そのそれぞれの取り組みが将来の国際競争力に差が出るという観点から、今回の研修ではAIの現状と可能性について最先端で研究をする講師のお話を伺った。

2 実施概要

実施日時	主 催	日本PFI・PPP協会
2018年7月12日(木) 13:30~16:40	会 場	東京都千代田区丸の内1-6-5 フラクシア丸の内オアゾ
感想(まとめ)・市政に活かせること		

講演者

東博暢氏(日本総合研究所)

「超少子高齢化社会とシンギュラリティ」

JovanReballedo氏

(東京大学大学院情報工学系研究科特任教授)

「世界におけるAI投資の状況と日本への提言」

1 PFIとは

公民が連携して公共サービスの提供を行うスキームをPPP(パブリック・プライベート・パートナーシップ)といい、その内、代表的な手法の「プライベート・ファイナンス・イニシアティブ」とは、公共施設等の建設、維持管理、運営等を民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用して行う手法である。

国や地方公共団体等が直接実施するよりも効率的かつ効果的に公共サービスを提供できる事業について、PFIの導入により、事業コストの削減、より質の高い公共サービスの提供を目指すもの。

英国など海外では、既にPFI方式による公共サービスの提供が実施されており、有料橋、鉄道、病院、学校などの公共施設の整備等、再開発の分野で成果を収めている。

2 考察

東博暢氏からは「超少子高齢化社会とシンギュラリティ」と題し、グーグルの自動運転車が2016年当時は突然バスに追突してしまうという状況だったが、現在は事故発生前に予測し、人間が運転していれば間違いなく事故につながっていたものを防げるようになってきていることなど、現在の技術を映像で示しながら様々な説明が行われた。また、かつて馬車の時代から車社会に変わるのに十数年しかからなかったことなどを引き合いに、現在の時代の流れはより早く、人口知能による社会変化は私たちが考えている以上に近いものとなることなどの様々な事例を伺った。

JovanReballedo氏からは「世界におけるAI投資の状況と日本への提言」と題し、現在グーグルをはじめとした世界の大手企業が注力する、AIチップの研究が急速に進んでいる事例などを基に、日本でも更にリスクを取った形で研究を進めることが求められるとの内容があった。

AIチップ = 単位電力当たりの性能が格段に上がり、コストの削減にもつながり、人口知能の演算処理などを高速化する半導体チップ

3 地方自治体でも考えていくべきこと

これから地方自治体でAIの導入が検討されていく中で課題となるのが、クラウドやサーバーなどを含めた費用面である。毎年多くのコストがかかってしまえば、人間が動いた方がよいということになるため、民間ではコストをかけないAI技術の提案が必要。これを実現していかなければ、いくらAI技術を騒いでいても意味がない。ただ、今地方自治体に求められることは、すぐにAI技術を活用するかしないかではなく、近い将来導入することを前提に、データベースを積み上げていく事。データベースを積み上げていくからこそAI技術が活かせるのであり、データなくしてAIの活用は望めない。特にわかりやすい面は医療の分野であり、例えば、病院においてAI技術が活用されることにより、一般財源からの支出が削減され、ゆくゆくはその開発したシステムが世界の市場で導入されていく可能性も十分に考えられる。

地方自治体における5年後10年後は、人員の減少や公共施設のメンテナンスなど業務が多くなり、困難な時代がくることが想定される。また、認知症対策による高齢者にかかる業務が増え、自治体職員の負担も増加することが考えられる。地方自治体職員のワークライフバランスの為にAIの導入が急がれるのではないかと。業務を軽減する部分は軽減し、必要な部分に入っていけるようにしていく仕組みをAIを活用する中で作るべきである。



PFI・PPP 協会会長 植田和男様



衆議院議員 塩谷立様



研修会会場にて 南波議員 山田議員 飯島議員

* 視察先の写真等がある場合は添付のこと